

根井三郎が発給した 命のビザ

文明開化を経て、近代化を推し進めながら、西洋の国々と肩を並べるべく邁進していた明治時代の日本。その頃、宮崎・佐土原で生誕し、後に外交官となり、命のビザを発給した人物が根井三郎です。

第二次世界大戦中、ナチス政権下のドイツで迫害を受けたユダヤ人難民は、住むところを追われました。そんな彼らにビザを発給し、日本を通過して各国へ亡命す

る道筋を作ったのが、リトアニアの日本領事館にいた外交官、杉原千畝(ちうね)です。日本行き

の日本領事館にいた外交官、杉原千畝(ちうね)です。日本行き

の日本領事館にいた外交官、杉原千畝(ちうね)です。日本行き



「昭和十年」の文字があることから、根井が35歳頃の写真と思われる。根井三郎を顕彰する会提供

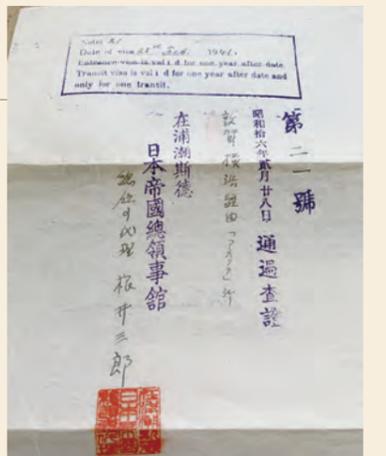
「根井三郎を顕彰する会」の根井翼会長によると、日本の外務省は杉原千畝が発給したビザは容認できないので、ユダヤ人難民のビザを再検討し、日本入国を厳しく取り締まるようにと根井三郎に指令を出しました。それに対し、根井三郎は、そのよ

うなことをすれば日本国の在在外公館が出したビザが、日本国の権威を損なうものだと拒み、「面白からず」という強い言葉で外務省に反論の電報を打ちました。そして、ユダヤ人難民を福井県敦賀港行の船に乗せたのです。それだけでなく、根井三郎自身もビザを持っていないユダヤ人難民にビザを発給し、自分の信念に従い、行動しました。根井三郎の信念を持った行動により救われたユダヤ人難民が何人いたのか。今回発見されたビザには「第21号」が記されていますが、数はまだはつきりしません。

このように根井三郎は、杉原千畝が発給したビザを繋いで、ユダヤ人難民を日本へ渡航させるとともに、根井三郎自身もビザを発給してユダヤ人難民の命を救ったのです。



40歳頃の根井三郎。根井三郎を顕彰する会提供



北出明氏提供

唯一見つかった「21号」

2020年4月、『命のビザ、遙かなる旅路』(交通新聞社)の著書もあるフリーライター・北出明さんが根井の働きを裏付ける重要な証拠を手に入れ、その知らせが宮崎にも届きました。それは根井自身が発行した「第21号ビザ」。北出さんが調査する中、日本を経由し、米国に渡ったユダヤ系ポーランド人のビザが見つかったのです。研究しつづけた人がいたからこそ、発見に至った貴重な資料です。



北出 明さん
(フリーライター)

Comment

私が「命のビザ」関連の調査でアメリカを訪れたのが2010年9月。その10年後の昨年4月に、それまで発見されていなかった根井三郎さん発給のビザの存在が判明しました。その確認の役割を私が果たすことになったのも何かのご縁かもしれません。これまでは、『命のビザ』と言うと杉原千畝さんの「専売特許」のように扱われていた傾向がありますが、今後は根井さんの功績にも光が当てられるようになることを願っています。



晩年は東京・久我山で暮らした根井。写真は井の頭公園での一枚。

■ 根井三郎 年表

年	月/日	年齢(歳)	根井三郎に関する出来事	世界、日本の動き
1902 (明治35)	3/18	0	宮崎県宮崎郡廣瀬村(現・宮崎市佐土原町)に生まれる	
1908 (明治41)	4	6	広瀬尋常高等小学校に入学	1914(大正3) 第一次世界大戦始まる
1916 (大正5)	4	14	長崎県立中学玖島学館に入学	1920(大正9) 国際連盟設立
1921 (大正10)	3		長崎県立大村中学校卒業(学校名改称)	
	4	19	外務省留学生試験に合格	
	6		外務省留学生としてハルビンへ留学。直ちに日露協会学校へ入校(二期生)	1923(大正12) 関東大震災
1924 (大正13)	3		日露協会学校(のちのハルビン学院)を卒業	
1925 (大正14)	4	23	ハルビン日本領事館に勤務	
	11		ウラジオストク日本総領事館に勤務	
1929 (昭和4)	3		通商局第二課に勤務	
	8	27	ウラジオストク日本総領事館に勤務	
1930 (昭和5)	9	28	会計課に勤務	
1932 (昭和7)	1	29	欧米局第二課に勤務	1932(昭和7) 満州国建国
	9	30	ウラジオストク日本総領事館に勤務	
1933 (昭和8)	12	31	ソビエト連邦勤務	1933(昭和8)ヒトラー政権誕生 ドイツと日本が国連脱退
1935 (昭和10)	4	33	大臣官房電信課に勤務	
1936 (昭和11)	7	34	イラン国に勤務	1938(昭和13) ユダヤ難民の日本入国を禁止 1939(昭和14) 第二次世界大戦始まる
1940 (昭和15)	4	38	欧亜局第一課に勤務 ※7~9月 杉原千畝がユダヤ難民にビザ発給	1939~40(昭和15) ユダヤ難民の日本通過への審査強化、'40日独伊三国同盟締結
	8		ウラジオストク日本総領事館への勤務を命ぜられる	
	12		総領事代理(副領事)となる	1941(昭和16) 太平洋戦争始まる
1941 (昭和16)		39	1/8 ウラジオストク着任 2/8~6/2 同地のユダヤ難民について本省(外務省)と電文のやり取り 3/30 国の命令に対しユダヤ難民などの日本渡航を認めるよう「面白からず」と異を唱える。 杉原発給のビザの有効性を訴えつつ、認められていなかったビザの独自発給を行う。	
	8		8/17~9/13 一時帰国	
1944 (昭和19)	11	42	ソビエト連邦勤務	
1945 (昭和20)	1	42	日本帰国、8月 日本で終戦を迎える	1945(昭和20) 第二次世界大戦終結
終戦翌年に外交官を退職し、大蔵事務官を経て、入国管理庁外務技官に。鹿児島、名古屋の入国管理事務所所長を歴任。				
1992 (平成4)	3/31	90	永眠	

■ 第二次大戦中にユダヤ難民がたどった逃避経路

